

## Ⅱ 研究開発実施内容

### 研究開発 1 課題研究 ― G L 探究 ―

#### 1 目的と期待される効果

##### (1) 目的

日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、グローバルな社会課題である国際間での文化や社会の対立を排除し、多文化共生社会の実現を図る課題研究を行うことを通して、グローバルな視野に立って探究し、課題を解決する資質、能力、態度を身に付ける。

また、課題研究の発表は、英語で行い、レポート等は英文表記でまとめることを通して、英語でのコミュニケーション力を向上させる。

##### (2) 期待される効果

課題研究の取組により、日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーとしての資質や能力が身に付くことが期待される。

#### 2 内容

- (1) 普通科1～3年次の「G L 探究」(総合的な学習の時間)においてグローバルな社会課題について課題研究を実施する。なお、G L とはグローバルラーニングの略である。
- (2) 地歴公民科及び英語科を中核とするが、基本的には全職員がテーマごとにチームを作って適切な準備をして生徒の指導を行う。
- (3) 課題研究の成果は、年度末に校内外の高校生、保護者及び近隣の小中学校を対象に発表会を行い、S G Hの普及を図る。また、成果を研究収録として冊子にまとめ、県内の高校等や全国のS G H校に配付し、S G Hの成果の普及を図る。

#### 3 実施方法

- (1) 1年次の「G L 探究」において、様々なテキストや資料、インターネット等で得られる情報等を用いて、グローバルな視点から歴史や地理、政治、経済等の基礎的な内容を学ぶ。基礎的な事柄及び得られた知識を整理するとともに、課題研究の手法も取得して、2年次からの課題研究に備える。
- (2) 2～3年次の「G L 探究」では、「G L アクティブ」や1年次に得た知識や手法を基に、各自または各班で課題研究に取り組む。
- (3) 千葉大学国際教養学部と連携を図り、課題研究の進め方やまとめ方の指導を受ける。この中で指導する教員対象のレクチャーも並行して実施する。
- (4) 研究に必要な資料や情報の収集及び研究のアドバイス等は国立歴史博物館、国際協力機構(JICA)やDIRECTFORCEの協力を仰ぐ。
- (5) 2年次終了時に課題研究発表会を行い、研究成果を口頭やポスターで発表する。

#### 4 検証評価方法

- (1) S G H運営指導協議会において、運営指導協議員による評価を行い、改善を図る。
- (2) 年度末に生徒及び保護者へのアンケート調査を行い、年度ごとのグローバル意識の変容について調査、分析し、改善を図る。
- (3) 校内外での発表の件数や発表会における入賞の件数や生徒の進路希望の変化について検証する。

#### 5 第1学年実施内容

##### (1) ガイダンス1「S G Hプログラム」

- ア 日時・場所 平成30年4月11日(水) 6限・本校体育館
- イ 目 標 S G Hに係る教育活動について理解する。
- ウ 内 容 本校S G H主任が、本校のS G Hに係る教育活動について説明するとともに、課題研究の概要、1年次の到達目標について説明した。

##### (2) ガイダンス2「佐倉を知る」

- ア 日時・場所 平成30年4月17日(火) 4限～7限・佐倉市内、国立歴史民俗博物館
- イ 目 標 佐倉市の歴史保存の在り方や佐倉市内の様子を調査し、地域や地域に受け継がれてきた伝統・文化について関心を高めるとともに、地域における課題を見付ける。加えて国立歴史民俗博物館の使用方法等を学ぶ。
- ウ 内 容 本校から、武家屋敷等を見学しながら国立歴史民俗博物館に向かい、博物館では使用方法や展示内容等について確認した。

##### (3) ガイダンス3「研究方法を知ろう」

- ア 日時・場所 平成30年4月24日(火) 6限・本校体育館
- イ 目 標 課題研究の進め方について理解する。
- ウ 内 容 本校S G H主任が、課題研究に向けてテーマの決め方や先行研究等の調べ方、研究方法について説明した。

##### (4) ガイダンス4「海外研修の報告を聞こう1」

- ア 日時・場所 平成30年5月8日(火) 6限・本校体育館
- イ 目 標 平成29年度末にドイツ及びイギリスで研修した生徒の成果を見聞することにより、グローバルな課題について知り、課題研究のテーマを考える一助とする。
- ウ 内 容 ドイツ及びイギリス研修に参加した生徒が、現地校の高校生等に向けて行った課題研究のプレゼンテーションを披露するとともに、フィールドワークや研修の内容について報告した。



#### (5) ガイダンス5「課題を見つけてみよう1」

ア 日時・場所 平成30年5月15日(火) 6限・各教室

イ 目標 研究テーマに取り上げてみたい課題を見つけることで、グローバル社会における課題に関心をもつ。

ウ 内容 グローバルな課題について具体例を挙げながら、研究テーマに結びつく課題の見つけ方について説明した。

#### (6) ガイダンス6「課題を見つけてみよう2」

ア 日時・場所 平成30年5月29日(火) 6限・各教室

イ 目標 高校生が解決可能なグローバルな課題について考えを深める。

ウ 内容 自分の見つけた課題について、なぜその問題に興味があるのか、その問題はどうかしたら解決できると思うか、高校生に解決に向けてできることがあるのか等についてについて1分間でスピーチを行った。その後生徒同士で課題について話合った。

#### (7) ガイダンス7「研究テーマを決めよう」

ア 日時・場所 平成30年6月26日(火) 7限・各教室

イ 目標 課題の焦点化を図ることで課題研究のテーマを決める方法を理解する。

ウ 内容 グローバルな課題について、研究テーマとなるよう焦点化する過程を説明するとともに、自分の見つけた課題を焦点化し研究テーマを設定した。

#### (8) ガイダンス8「課題研究の見通しを立てよう」

ア 日時・場所 平成30年6月27日(水) 7限・体育館

イ 目標 課題研究の発表例や先輩の課題研究の内容を知ること、課題研究の見通しを立てる。

ウ 内容 課題研究プレゼンテーションの動画を視聴するとともに、本校3学年生徒のSGH・SSH課題研究の内容について説明した。また、生徒が研究の見通しを立てることができるよう今後の課題研究の流れについて説明を行った。

#### (9) 「課題研究を始めよう」

ア 日時・場所 平成30年7月9日(月) 3, 4限・本校体育館

イ 講師 寺田 博史 氏 (日本政策金融公庫)

ウ 目標 ビジネスプランを例として課題研究テーマについてのプランニング能力を高め、

課題研究の一助とする。

エ 内 容 日本政策金融公庫の 正能幹雄 氏 をお招きし、ワークショップ等を行いながら、課題研究の進め方について具体的に説明を行った。



#### (10)「夏季休業を活用しよう」

ア 日時・場所 平成30年7月10日(火) 4限・各教室

イ 目 標 夏季休業中にできることを確認し、課題研究のテーマを見付ける契機とする。

ウ 内 容 研究テーマ、テーマ設定の理由、研究の目的、仮説をまとめるとともに、夏季休業中に実施する調査の予定を立てた。また、夏季休業中に実施するGLアクティビの説明を行った。

#### (11)「1分間スピーチ」

ア 日時・場所 平成30年9月4日(火) 6・7限・各教室

イ 目 標 1分間スピーチを行い、それぞれのテーマを知ることによりグループを構成する一助とする。

ウ 内 容 研究テーマを選んだ理由、研究の目的、仮説、解決(改善)に向けた見通し考えている調査について、クラス全員の前で1分間発表する。その後質疑応答を行い研究テーマについて考えを深める機会を設けた。千葉大学国際教養学部ヤニス先生と東京大学教養学部阿古先生に助言をいただいた。

(助言の抜粋)

・グループを作ったら、テーマを決めるときに役立った参考文献の一覧、役立たなかった文献の一覧を作って、お互いのグループで情報を共有するとよい。このグループでは役立たなかった文献や事例でも、他の研究テーマのグループには役立つかもしれない。

・あるクラスでは、1人の生徒のスピーチの後、生徒の発言は質問やアドバイスのみにとどめていましたが、「質問に答えなくてよい」としたところがよかった。1年生の段階でなかなかすぐに応答はできない。今回の目的は、同じようなことをテーマにしたいという人たち、みんなでこの問題に取り組もうというグループをつくるためなので、グループでテーマが決まってからそのアドバイスや質問に対しての答えを考えれば良い。質問だけで答えなくてよいとしたほうが、発表者も発表しやすく、質問する方もしやすいのでは。時間も短くできる。

・あるクラスで、献血をテーマに発表している生徒がいた。彼の発表は、なぜこのテーマを選んだか、家族のエピソードからはじまって、研究の目的や仮説がわかりやすかった。発表の仕方、手順がスムーズで1分間スピーチとしてはすばらしかった。

## （１２）講演会「ポピュリズムと多文化共生」

- ア 日時・場所 平成30年9月13日（木）7限・本校体育館
- イ 目 標 グローバルな課題について研究している大学教授の話聞くことで、これから到来するグローバル化社会の中で、自分がどのように生きていくべきかを考える。
- ウ 講 師 千葉大学法政経学部教授 水島 治郎 先生
- エ 内 容 「ポピュリズムの台頭と多文化共生―混迷する現代世界を千葉から考える―」という題で、現代政治におけるポピュリズム（グローバル化との関係性）、治水・利水から見たオランダと千葉県北総地域の比較（地域の発展と育まれた独自性の共通点）、千葉大学の学生と行っているまちづくり活動（地域から始まる多文化共生）などについての話を聞いた。



## （１３）「課題研究テーマ，研究の目的（設定理由，仮説等）を決めよう」

- ア 日時・場所 平成30年9月25日（火）6・7限・各教室
- イ 目 標 研究グループを構成し課題研究テーマを決定する。
- ウ 内 容 研究グループをつくり，ブレインストーミング，グループマッピング等の手法を用いて，研究テーマを絞り込み，課題研究のテーマを決定する。その際に設定理由等についてもまとめる。

## （１４）「海外研修の報告を聞こう２」

- ア 日時・場所 平成30年10月9日（火）6限・本校体育館
- イ 目 標 オーストラリア及びシンガポールで研修した生徒の成果を見聞することにより，1学年生徒はグローバルな課題について知り，2学年は，質的調査の報告等を聞

くことにより、課題研究の一助とする。

ウ 内 容 オーストラリア研修及びシンガポール研修に参加した生徒が、現地の高校生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワーク等について報告した。

#### **(15)「SSH課題研究ポスター発表から学ぼう」**

ア 日時・場所 平成30年10月9日(火) 7限・本校体育館

イ 目 標 SSH課題研究のポスター発表(模擬発表)を見聞きすることにより、SGH課題研究の方向性を探るとともに、ポスター発表の手法を学習する。

ウ 内 容 第2学年理数科生徒がSSH課題研究中間発表のポスターを用いて発表する。その後質疑応答を行い、第1学年生徒は、他の発表者の前に移動する。このことを繰り返す。第1学年生徒は、研究手法や発表方法等、気付いたことをメモに取る。

#### **(16)「課題研究テーマ、設定理由等の修正」**

ア 日時・場所 平成30年10月23日(火) 6限・各教室

イ 目 標 研究グループごとに課題研究テーマを絞り込むとともに、研究方法を明確化する。

ウ 内 容 研究グループごとに、提出されたテーマについて、担当教員からの指導を受け、テーマの再考又は焦点化をするとともに、具体的な研究方法について協議し、研究の方向性を明確化する。

#### **(17)「課題研究の計画」**

ア 日時・場所 平成30年10月30日(火) 6限・各教室

イ 目 標 研究グループごとに課題研究の計画を立てる。

ウ 内 容 研究グループごとに、決定した研究仮説、調査方法、研究計画を作成する。

#### **(18)「課題研究を進めよう」**

ア 日時・場所 平成30年11月6日(火) 6限・各教室

イ 目 標 研究グループの中で課題研究の方向性を確認する。

ウ 内 容 研究グループごとに、研究テーマ(タイトル)、研究目的、調査方法案(先行事例・先行研究、インタビュー・アンケートや商品開発案、参与観察案)、参考引用文献についてまとめる。

#### **(19)「海外理解推進のための講演会」**

ア 日時・場所 平成30年11月16日(金) 4・5限・本校体育館

イ 目 標 講義を通してグローバルな課題について学び、研究課題の一助とする。

ウ 内 容

(ア)「グローバル化と国際教育」

稲葉 健一氏(JICA海外ボランティア経験者)

(パラグアイで体験した青年海外協力隊としての活動を中心に、パラグアイでの生活、現地で感じたこと、支援を現地に根付かせることについて)



(イ)「激変するグローバル化社会で皆さんが考えるべきこと」

遠藤 恭一氏 (DIRECTFORCE授業支援の会)

(海外での実体験を踏まえ、大きく変化する将来の社会で生活していくために必要な考え方や意識について)

## **(20)「課題研究進捗状況報告会」**

ア 日時・場所 平成30年11月20日(火) 6・7限・各教室

イ 目 標 他グループの課題研究の計画を聞き、研究の一助とする。

ウ 内 容 グループごとに、ポスター(A0)やA3用紙などに書いたグラフや写真を使用し、研究テーマ(タイトル)、研究目的、調査方法案(先行事例・先行研究、インタビュー・アンケートや商品開発案、参与観察案)、参考引用文献について5分で発表した。聞き手は付箋にアドバイスや質問を書き、発表者はそれを見て研究の参考とした。

## **(21)「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて 1」**

ア 日時・場所 平成30年11月27日(火) 6・7限、12月11日(火) 6限、  
12月18日(火) 6限・各教室

イ 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・自分たちの行動や発信できることを検討するとともに、まとめて日本語でポスターを作成する。

ウ 内 容 20日に付箋等書いてもらった情報を整理し、次のことを確認しながら日本語でポスターを作成した。①発表タイトルは誰が見ても何の研究なのか判断できる、②「何を明らかにするのか。(何を解決したいのか)」など研究の目的が明確である、③先行研究で明らかにされてきたことが明確である、④どのようなデータを収集したいのか整理されている、⑤研究の結果、どのような結論(提案)を出そうとしているのかがわかる、⑥内容を適切に説明することができる、⑦参考・引用文献が示されている。

## **(22)「2年生の課題研究進捗状況報告会を参観しよう」**

ア 日時・場所 平成30年11月27日(火) 7限・2学年教室

イ 目 標 2学年生徒の課題研究進捗状況報告会に参加し、課題研究の一助とする。

ウ 内 容 2学年生徒の課題研究のうち関心のある研究や自己の研究に関係する内容のものを選び、2学年の教室で実施している課題研究進捗状況報告を参観した。

## **(23)「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて 2」**

ア 日時・場所 平成31年1月8日(火) 6限、1月15日(火) 6限・各教室

イ 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・自分たちの行動や発信できることを検討するとともに、英語でポスターを作成し、英語で発表ができるようにする。

ウ 内 容 日本語で作成したポスターを基に英語のポスターを作成した。また、研究内容が明確になるよう英語の発表原稿を作成した。

## **(24)「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて リハーサル」**

ア 日時・場所 平成31年1月22日(火) 6・7限・各教室

- イ 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・自分たちの行動や発信できることを検討するとともに、まとめて英語でポスターを作成し、英語で説明できるようにする。
- ウ 内 容 発表は、1班5分以内、準備は1分以内で行った。

### （２５）「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて ３」

- ア 日時・場所 平成３１年１月２９日（火）６限・各教室
- イ 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・自分たちの行動や発信できることを英語で説明できるようにする。
- ウ 内 容 リハーサルにおける課題を解決し、わかりやすい発表ができるように改善した。

### （２６）課題研究発表会「互いのプランを深め合うクラス発表会」

- ア 日時・場所 平成３１年２月１９日（火）５～７限・教室、地域交流施設
- イ 目 標 課題研究の進捗状況を発表し、留学生との質疑応答及び評価を通して、研究プランを深め、具体的にどのような提言・発信や行動をとることができるのかを考える。また、プレゼンテーション力・英語力を高める。
- ウ 外部からの助言者及び評価者  
メロス言語学院学生（海外からの留学生２８名のうち１４名が１学年を担当）  
参加学生国籍 中国・韓国・マレーシア・ロシア・台湾・インドネシア
- エ 内 容 グループごとに課題研究の研究テーマ設定理由（取り上げるグローバルな課題の明示）、先行研究・先行事例、仮説、研究方法等を英語でポスターに表現し、英語による発表を行った。メロス言語学院の学生（海外からの留学生）を招き、質疑応答及び評価に参加していただいた。

### 【第１学年生徒 発表テーマ】

A1	受動喫煙対策
A2	せいがくもちを広めよう
A3	廃プラスチックの削減
A4	ピクトグラムで世界を迎える
A5	ハラールスイーツ
A6	魅力あふれる佐倉市を伝えよう
A7	エスニック料理を非常食にしよう
A8	ベジタリアンへの料理
A9	外国人に向けた和菓子
B1	ペット用ハザードマップの作成
B2	食品ロス削減のため
B3	千葉の食材を使った外国の伝統料理の販売
B4	フードバンクを広めよう
B5	コメ離れの解消
B6	さくら教室～私たちにできる子ども幸せ計画～
C1	R e d u c i n g   P l a s t i c
C2	食品ロス削減



C3	印旛沼を佐倉の観光名所にしよう
C4	校則から生徒を自由に
C5	佐倉に外国人観光客を呼びよせよう
C6	外国人向けの災害対策リーフレット
C7	効率の良い植物の育て方
C8	簡易礼拝所の設置による町おこし
D1	グローバル化に対応できる小学校教育とは
D2	子ども食堂
D3	子どもの教育問題(学童)
D4	高校生の力で侵略者から印旛沼を守ろう！～第2弾～
D5	緊急時における水の確保
D6	食品ロスを通じて
D7	地方の人口を増やす
E1	ムスリム向けの給食
E2	障がい者の社会進出
E3	佐倉の地域活性化
E4	花粉
E5	地球温暖化への対処
E6	害獣から畑を守る
E7	日本の教育の改善
F1	房州うちわの後継者不足問題
F2	耕作放棄地
F3	佐倉市の活性化
F4	ハラルラーメンの提供
F5	八埃（やちぼこり）への対策
F6	リユース食器を広めよう
F7	農業の再復興
F8	日本人と訪日外国人をつなぐシステムの提案
G1	訪日外国人に向けた防災
G2	殺処分ゼロを目指して
G3	ポイ捨てを減らすためには
G4	体の姿勢の改善によるパフォーマンスの向上
G5	食べ物のムダをなくす
G6	認知症カフェの効果
G7	生ゴミを利用して、無駄をなくそう
G8	顧客ニーズに対応した成田空港へ

【留学生による評価】

	優れている	良い	もう少し頑張って	努力が必要
研究目的	56.9%	31.4%	9.8%	0.0%

構成と論理展開	37.3%	49.0%	13.7%	0.0%
先行研究と調査方法	45.1%	43.1%	9.8%	0.0%
表現と話し方	35.3%	47.1%	11.8%	3.9%
ポスター	35.3%	47.1%	17.6%	0.0%
質疑応答	19.6%	31.4%	27.5%	5.9%

## (27) SSH・SGH合同課題研究発表会

- ア 日時・場所 平成31年3月18日(月) 9:00～14:30・体育館・教室等
- イ 対象 1・2学年生徒
- ウ 目標 代表グループが研究発表を行い、発表者以外の生徒や留学生との質疑応答を通して、研究に対する考えを深め、具体的にどのような提言・発信や行動をとることができるのかを考える。

## 6 第2学年実施内容

### (1)「課題研究の見通しを立てよう」

- ア 日時・場所 平成30年4月10日(月) 5限・本校体育館
- イ 目標 課題研究の進め方と1年間の見通しを立てることで、研究計画を主体的に作成し、円滑な活動ができるようにする。
- ウ 内容 課題研究の留意点と今後の見通しについて説明した。

### (2)「研究計画を見直そう」

- ア 日時・場所 平成30年4月17日(火) 6・7限, 4月24日(火) 6限・本校体育館
- イ 目標 1年間を見通しながら具体的な研究計画を立てる。
- ウ 内容 1年次の「互いのプランを深め合うクラス発表会」において課題となったことについて話し合い、研究計画を再考した。

### (3)「海外研修の報告を聞こう」

- ア 日時・場所 平成30年5月8日(火) 6・7限・本校体育館
- イ 目標 平成29年度末にドイツ及びイギリスで研修した生徒の成果を見聞することにより、グローバルな課題について知り、課題研究のテーマを考える一助とする。
- ウ 内容 ドイツ及びイギリス研修に参加した生徒が、現地校の高校生等に向けて行った課題研究のプレゼンテーションを披露するとともに、フィールドワークや研修の内容について報告した。

### (4)「具体的な研究計画を作成しよう」

- ア 日時・場所 平成30年5月15日(火) 6限, 5月29日(火) 6限, 6月26日7限・各教室
- イ 目標 研究テーマ等を見直すことで、課題についての考えを深める。
- ウ 内容 グループごとに、先行事例・先行研究の確認、仮説の妥当性、必要な情報の整理、具体的な調査方法について検討・協議し、具体的な研究計画を作成した。

#### **(5)「フィールドワークについて」**

ア 日時・場所 平成30年7月10日(火) 3限・7月11日(水) 4限・各教室

イ 目 標 調査・分析を主体的に的確に実施できるようにする。

ウ 内 容 夏季休業中に行うフィールドワーク、質的調査、量的調査等の方法、段取り等について計画を立てるとともに、調査等を行うときの留意点について確認した。  
また、ビジネス課題について研究を行うグループについては、日本政策金融公庫の方による相談会を行った。

#### **(6)「フィールドワークの資料整理をしよう」**

ア 日時・場所 平成30年9月4日(火) 6・7限・各教室

イ 目 標 グループごとに調査結果を整理し、情報を共有して分析することで、課題解決の方法を見付け出す。

ウ 内 容 グループごとに、夏季休業中に行ったフィールドワーク、質的調査、量的調査等の目的と成果をまとめ、課題解決に向けた提案を作成し、担当教員に報告した。

#### **(7)講演会「ポピュリズムと多文化共生」**

ア 日時・場所 平成30年9月13日(木) 7限・本校体育館

イ 目 標 グローバルな課題について研究している大学教授の話を聞くことで、これから到来するグローバル化社会の中で、自分がどのように生きていくべきかを考える。

ウ 講 師 千葉大学法政経学部教授 水島 治郎 先生

エ 内 容 「ポピュリズムの台頭と多文化共生―混迷する現代世界を千葉から考える―」という題で、現代政治におけるポピュリズム(グローバル化との関係性)、治水・利水から見たオランダと千葉県北総地域の比較(地域の発展と育まれた独自性の共通点)、千葉大学の学生と行っているまちづくり活動(地域から始まる多文化共生)などについての話を聞いた。

#### **(8)「研究内容をまとめよう」**

ア 日時・場所 平成30年9月25日(火) 6・7限・各教室

イ 目 標 課題研究の内容をまとめる。

ウ 内 容 報告の進め方やデータの表現等を検討するとともに、考察について話し合うなど報告書作成に向けてグループごとに協議した。

#### **(9)「海外研修の報告を聞こう2」**

ア 日時・場所 平成30年10月9日(火) 6限・本校体育館

イ 目 標 オーストラリア及びシンガポールで研修した生徒の成果を見聞することにより、質的調査の報告等を聞くことにより、課題研究の一助とする。

ウ 内 容 オーストラリア研修及びシンガポール研修に参加した生徒が、現地の高校生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワーク等について報告した。

#### **(10)「課題研究発表の準備をしよう」**

ア 日時・場所 平成30年10月9日(火) 7限・10月23日(火) 6限・各教室・コンピ

ュータ室，LL教室等

イ 目 標 課題研究の内容をまとめる。

ウ 内 容 グループごとに研究内容をまとめ，発表準備に取り組んだ。

#### (11)「課題研究進捗状況報告会」

ア 日時・場所 平成30年11月6日（火）6限，11月27日（火）6・7限・各教室

イ 目 標 課題研究の発表に向けて準備を行う。

ウ 内 容 11月6日にグループごとに進捗状況をタイトル，研究目的，調査（先行事例・先行研究，独自調査），分析，結論（提案），参考引用文献（書いたもので示す。）の順で整理し発表の準備を行った。11月27日に各グループ7分で日本語又は英語で進捗状況の報告を行った。聞き手は付箋等の良い点・改善点をメモし発表者に渡した。

#### (12)「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」

ア 日時・場所 平成30年12月11日（火）6限，12月18日（火）6限，  
平成31年1月8日（火）6限，1月22日（火）6限・各教室

イ 目 標 研究発表の改善を行いつつ要約文や発表資料を作成することで，よりわかりやすい発表を行うことができるようにする。

ウ 内 容 進捗状況報告会で指摘を受けたことを参考に発表内容を見直した。また，研究発表について要約文を日本語及び英語で作成するとともに，発表用スライド又はポスターを作成した。

#### (13)「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて リハーサル」

ア 日時・場所 平成31年1月29日（火）6・7限・各教室

イ 目 標 研究の成果を的確に伝えられるようにする。

ウ 内 容 ①各教室で2グループ1組をつくる。②組ごとに一方のグループが発表しているときは，もう一方のグループが聞き手に回る。発表時間は，1グループにつき7分以内，質疑応答は5分以内で行う。③聞き手のグループが時間（7分）を計る。④発表を聞いているグループの生徒は質問するとともに，コメント用紙に必要事項を記入して発表者に渡す。

(コメント用紙)

プレゼンテーション・ポスター発表は、以下の評価項目を参考に評価をしてください。  
※各班で発表を聞いた班に1枚渡してください。

〔評価項目〕 発表をする・見るポイント

- (1) 発表タイトル 聴衆が見て何の研究なのか判断できる。
- (2) 「何を明らかにするのか。(何を解決したいのか)」など研究の目的がわかりやすく示されている。
- (3) どのような方法で収集したデータを分析したのか示されている。
- (4) 研究の結果、何が明らかになったのかの考察・結論(提案)が示されている。
- (5) 内容を適切に説明することが出来る(プレゼンテーション能力)  
(目線, 声, 手振りを使って, わかりやすくはっきりと説得力ある説明をしている。)
- (6) 参考・引用文献が示されている。
- (7) 質疑応答等  
(例) どのような先行研究・先行事例を参考にしたのか説明できる。

旧 組 班へ

〔評価〕 1～4点で評価 (○をつける)

4 : 優れている 3 : よかった 2 : もう少しがんばって 1 : 努力が必要

コメント (箇条書きでよい)

例 プレゼン能力が高く、おもしろい内容だった。研究の目的がわかりにくい。

○○調査は、この研究の目的や結論と結びついていない。

○○すると思う。

旧 組 班 班長

#### (14) 課題研究発表会「互いのプランを深め合うクラス発表会」

ア 日時・場所 平成31年2月19日(火) 5～7限・各教室

イ 目 標 グループごとにSGH課題研究の進捗状況について発表し、留学生との質疑応答を通して、研究プランを深め、具体的にどのような提言・発信や行動をとることができるのかを考える。

ウ 外部からの助言者及び評価者

メロス言語学院学生(海外からの留学生28名のうち14名が2学年を担当)

参加学生国籍 中国・マレーシア・インドネシア・台湾・ベトナム

エ 内 容 グループごとに課題研究の成果についてプレゼンテーションソフトを使用し、取り上げた課題に対して調査等を根拠にした解決方法を示すとともに提言を行う。発表言語は、英語又は日本語で行う。日本語で説明するグループは最初に研究概要を英語で説明する。メロス言語学院の学生(海外からの留学生)を招き、質疑

応答及び評価を参加していただいた。

【第2学年生徒 発表テーマ】

A1	お米の消費量を増やしたい ～日本のお米農家を救え～
A2	嫌韓から好韓へ ～ホットクを通じた日韓関係の改善～
A3	日本の味噌汁を世界に広めよう ～味噌汁を使って肥満改善～
A4	良い生活習慣を保ち、健康寿命を伸ばそう～子供の頃から出来ること～
A5	外来種を減らそう！～早期発見プロジェクト～
A6	誰にでもわかるゴミ袋
A7	若者の米消費を増やそう
B1	スマホが勉強に与える影響と付き合い方
B2	食で若年層と農業を繋ぐ～農業カフェから農業の活性化へ～
B3	成田市場に外国人を呼び込もう ～2020年の移転に向けて～
B4	印旛沼外来生物の活用 ～肥料化・食料化～
B5	ゴミの分別を正しく
B6	佐倉茶を広める
C1	「皆が安全に暮らせる環境作りとは ～点字ブロックを通して福祉を見る～」
C2	” convinient train station” ～外国人観光客にとって使いやすい駅～
C3	印旛沼の水質改善
C4	子どもの貧困～「子ども食堂」を知ってもらおう～
C5	空き家を使った施設で地域活性化
C6	守れ！動物の命～目指せ！殺処分 zero～
D1	蚊帳の可能性を探る～香り付き蚊帳の開発～
D2	インバウンドにとって分かりやすい地震対策についてのリーフレットを作ろう
D3	高齢者の住みやすい街
D4	外国人観光客が困っていること～2020年に向けて～
D5	インバウンド（外国人観光客）に日本食を広めよう～ハラルラーメン開発を通して～
D6	VEGETARIANS FIRST
E1	横芝光町を活性化させよう
E2	マイノリティに優しい社会
E3	食材のゴミを有効活用しよう
E4	日本のマナーを広めよう！
E5	通勤ラッシュを減らそう
E6	『子供の栄養状態を見直そう』
F1	テーマ 佐倉に訪れる外国人観光客を増やそう！
F2	動物殺処分を減らすために～殺処分ゼロを目指して～
F3	結～組紐で繋ぐ from『君の名は』～
F4	農泊でインバウンドを佐倉へ！
F5	地名・伝承・古地図に学ぶ防災
F6	Peanuts Revolution

F7	政治への関心を高めよう！～By the Students, For the People.～
G1	世界あんこ化計画
G2	アブラカタブラ油リサイクル
G3	食品ロスを減らそう
G4	外国人向け、佐倉の観光マップを作ろう
G5	Peace Keeping Project ～若い世代と共に平和について考えよう～
G6	魚離れを食い止める！
G7	ピクトさんこんにちは～ピクトグラムをより多くの人にわかりやすく～
G8	ポイ捨てを減らす ～よりよいまちづくり～

#### 【留学生による評価】

	優れている	良い	もう少し頑張って	努力が必要
研究目的	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
構成と論理展開	54.0%	39.7%	6.3%	0.0%
分析・データ	46.0%	49.2%	3.2%	0.0%
表現と話し方	44.4%	47.6%	7.9%	0.0%
スライド・ポスター	50.8%	46.0%	3.2%	0.0%
質疑応答	30.2%	55.6%	11.1%	0.0%

#### (15) SSH・SGH合同課題研究発表会

ア 日時・場所 平成31年3月18日（月）午前9時～午後2時30分・体育館・教室等

イ 対象 1・2学年生徒

ウ 目標 代表グループが研究発表を行い、発表者以外の生徒や留学生との質疑応答を通して、研究に対する考えを深め、具体的にどのような提言・発信や行動をとることができるのかを考える。

#### (16)「研究報告書を作成しよう」

ア 日時・場所 平成31年3月19日（火）2限・体育館・教室等

イ 対象 2学年生徒

ウ 目標 研究をまとめる。

エ 内容 課題研究の成果を報告書にまとめる準備を行った。

（教材の抜粋）

#### SGH 課題研究報告書（レポート）の作成について

##### 1 形式・提出方法・期限

横書き、A4版 42字×40行、余白上下2CM、WORD、8～15ページ

日本語…MS明朝 10.5、ページ番号は下中央部、英語…Times New Roman 10.5ポイント

英語のレポートは、題名も英語で。右上の班名と、3年、氏名の部分は日本語で統一します。

##### 2 内容

分担して執筆し、章や節の最後に（「文責：〇〇」）と入れてわかるようにする。必ず以下の要



素を含むこと。

題名(センタリング・MS 明朝 20 ポイント)

A2班

(研究者名) 3年 (氏名)

(氏名)

(氏名)

Abstract (研究の要旨・日本語班は、必ず英語で)

.....(文責○○)

1 研究目的(課題設定理由・背景はここに入れる、ここに先行研究・事例を入れてもよい)

(1)

①

②

(2)

.....(文責○○)

2 調査 (研究の手法・内容・結果・分析を含む)

(1)調査・分析1(先行研究・事例をここに入れてもよい)

(グラフ・写真などの出典をグラフの下にも明記する。( )を付けて MS 明朝8. 0)

グラフ1

グラフ2

(2016 年度厚生労働白書より作成)(内閣府ホームページにより作成)(2016 年 8 月 10 日 毎日新聞より作成)

(2)調査・分析2(アンケート調査, 調査対象の属性年齢・性別・国籍など, 人数なども入れる)

(3)調査・分析3(文献, アンケート調査の他にインタビュー, 出前授業など)

3 結論・提案(今後の展望もここに含む。)

4 出典・参考文献一覧

・書籍…○山口郎(2012)『効果的な英語教育法』(○○新書)○○社

・雑誌記事・論文…○藤○代「世界の英語」『英語学習』2010 年 5 月号

・新聞記事…「英語教育は必要か(見出し)」『朝日新聞』2010 年 7 月 10 日朝刊

・Web サイト…「公立小学校の英語教育」『文部科学省』<http://...>参照日 2018 年 7 月 10 日

・国土交通省『平成 30 年度版観光白書』(2018)

(題名)	
	A 2 班 (研究者名) 3 年 (氏名) (氏名) (氏名)
<b>Abstract</b> ..... (Sakura Hanako)	
<b>1 Purpose</b> (課題設定理由・背景はここに入れる) (1) ① ② (2) ..... (文責〇〇)	
<b>2 Research</b> (研究の手法 Methods・内容・結果 Results・分析 analysis/Discussion を含む) (1) <b>Research 1</b> ①～② (グラフなどの出典をグラフの下にも明記する。Times New Roman 9 ポイント) Figure①                      Figure② Source: Ministry of Education, Science and Technology 2016 (2) <b>Research 2 (Questionnaire)</b> (調査対象の属性年齢・性別・国籍など、人数なども入れる) (3) <b>Research 3</b> (Questionnaire の他に Interview, Demonstration Lesson 等)	
<b>3 Conclusion</b> (提案 Suggestions でもよい。今後の展望 Future Prospects もここに含む。)	
<b>4 References</b> (日本語の例を参考に、日本語の書籍であれば日本語でよい) ・Thelin, John R., 2004, <i>A History of American Higher Education</i> , The Johns Hopkins University Press	

私たちの研究目的は～です。The purpose of our project was～ などの表現は要らない。  
 項目立てに「目的」"Purpose" などが入っているので、直ちに本題に入って構わない。

レポートを提出する前のチェックポイント

- 1 レポートの内容は課題（テーマ）に沿ったものになっていますか。
- 2 レポートの構成は、テーマ・研究の目的・背景・調査研究内容・分析・結論・提案・今後の展望・出典・参考引用文献の要素を含んだ構成になっていますか。
- 3 自分（たち）の主張には適切な根拠がありますか。
- 4 研究目的で述べた内容が、結論・提案に対応していますか。

(最も大切な部分です。)

- 5 パラグラフ（文章の一区切り。段落。節。）同士が論理的につながっていますか。
- 6 自分の意見と他人の意見を明確に区別していますか。
- 7 文献や論文、インターネットの情報を引用した文（短い文の場合）は、日本語文の場合「 」（『 』著者〇〇）、英文の場合“ ”（『 』著者〇〇）の中に入れましょう。
- 8 出典・参考文献一覧は、次のように書いてください。
  - ・後藤芳文他（2014）『学びの技14才からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部
  - ・Thelin, John R. 2004. *A History of American Higher Education*. The Johns Hopkins University Press.
- 9 レポート全体を読み直してみて、文章は明快で読みやすく書けていますか。
- 10 レポートの文章は「です・ます」調ではなく、「である」調で統一されていますか。
- 11 パラグラフ（段落）の一文字を下げて書いていますか。
- 12 誤字・脱字、変換ミスはありませんか。スペルチェックをしましょう。
- 13 学年・氏名・共同研究者・文字数・行数・ページ番号などは、指定されたとおりになっていますか。
- 14 メール送信しましたか。

盗用・剽窃は絶対にやめましょう！

例

- 他人の論文や文献の内容を、書誌情報を明記せずに自分のレポートに書くこと
- インターネット上の情報を、URLなどを明記せずにコピー＆ペーストすること
- 友達や先輩のレポートをそのまま写したもの

（「Master of Writing」『立教大学』を参考に作成）

## 7 第3学年実施内容

### （１）「研究報告書を作成しよう」

- ア 日時・場所 平成30年4月10日（火）6限、4月17日（火）6限・  
5月8日（火）6限、5月15日（火）6限、6月5日（火）6限、  
6月12日（火）7限、6月26日（火）7限・各教室、コンピュータ室、  
LL教室等
- イ 目 標 研究をまとめる。
- ウ 内 容 グループごとに課題研究の成果を報告書にまとめる作業を行った。報告書が完成したら紙媒体で提出した。

### （２）「研究報告書を完成させよう」

- ア 日時・場所 平成30年9月11日（火）6限、9月18日（火）6限・各教室
- イ 目 標 研究をまとめる。
- ウ 内 容 提出された報告書の修正を行い、完成版を提出した。

### （３）「自己の在り方について考えよう」

- ア 日時・場所 平成30年7月20日（金）3・4限、9月25日（火）6限、  
後期総合的な学習の時間・各教室

イ 目 標 グローバル社会に生きる自己の在り方について考える。

ウ 内 容 グローバル社会を踏まえて卒業後の自己の在り方について考察を深め、自己実現に向けた準備を行う。

【第3学年生徒 研究テーマ】

A1	ハラルラーメンを広めよう
A2	日本とイスラム～共通文化でよりよい関係へ～
A3	日本人の英語でのコミュニケーション能力を上げるには
A4	日本の選挙をより良くするためには、どうすればよいだろうか。
A5	どの国でも見られるアニメを作る。
A6	佐倉高校から始める温暖化対策―打ち水の活用―
A7	すべての人が楽しめる東京オリンピックにするためには。
B1	現代で必要なおもてなし～Break the language wall～
B2	伝統工芸を広めよう～アイデンティティを失わないために～
B3	日本の米を海外に広めるにはどうしたらよいか。
B4	観光を利用した地域経済活性化を図ろう！
B5	原子力発電との向き合い方
B6	日本を、移民・難民の来やすい国にしよう。
B7	日本のアソビを世界へ発信する
C1	印旛沼の水質調査と提言
C2	Let's Rescue Food!(レッツ レスキューフード)
C3	レジ袋使用削減による環境への効果
C4	日本製品で不便を解決
C5	日本人と水文化
C6	佐倉の観光地を広めよう！
C7	地球温暖化の改善への道
D1	サープラススープ
D3	どのようにして佐倉の「ミソ」を世界へ売り込むか。
D4	餃子で築く日中の友好関係
D5	CO <sub>2</sub> 削減による環境改善～ごみの減量に着目して～
D6	あなたの食事、それで大丈夫ですか？
D7	食料の無駄な廃棄をなくそう～ドギーバッグ復活計画～
E1	誰でもわかるピクトグラムの提案
E2	日本は難民を受け入れる国として適切かどうか。
E3	外国人旅行者に、日本のルールやマナーを理解してもらうにはどうすればよいか。
E4	信頼関係を築くための異文化理解～日本のアニメ、マンガを通して～
E5	食料自給率、過疎化問題いっしょに解決～農産物を電車で販売しよう！～
E6	手ぬぐい～訪日外国人が快適に過ごすために私たちは何を手伝えるだろうか～

E7	よりよい観光を外国人に～鎌倉での実践～
F1	治水について
F2	日本の祭りについて世界に発信する。
F3	“TSUKEMONO”～食品ロス無くそう～
F4	ユニバーサルデザインを広めるには、どうすべきか。
F5	水の生成
F6	在日外国人中高生に対する日本語教育
F7	地域資源の有効活用～菜の花プロジェクト～
F8	エネルギー消費削減～緑のカーテンをつくろう～
G1	妖怪から学ぶ～日本と海外の国との考え方の違いを見つける及び妖怪の定義～
G2	「海外支援に対する日本人の理解」
G3	戦争について語り継いでいくためにはどうすればよいか？～自分たちも含めた語り部の育成～
G4	見た目問題－病気やけがで見た目(外見)に症状を持つ人々が暮らしやすい社会にするために－
G5	救え！殺処分される動物たち～日本・ヨーロッパの文化の違いから検証する～
G6	マンガ擬態でみる日本と世界の比較
G7	受け入れるだけでいいですか？～難民とともに生きる～
G8	女性の社会進出を拡大するために～子育て支援を通じて～
G9	For Better Global Society

## 8 成果と課題

### ① 第1学年生徒対象ルーブリック評価表

課題研究プロセス1年 自己評価		研究テーマ(タイトル)	組	番	氏名
身につけさせたい資質・能力等 ①日本の歴史・伝統・文化に対する理解の深化 ②思考力・判断力・表現力・情報活用能力 ③グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心 ④コミュニケーション能力 ⑤日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しよりよい未来を志向する力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案を的確に発信する力 ⑧英語力					
資質・能力	項目	S(4) 新しい発想ができるレベル以上である	A(3) 他の視点や発想を取り入れることができるレベルに達している	B(2) 求めているレベルに概ね達している	C(1) 求めているレベルにもう少しで達する
②思考・判断・表現・情報活用能力 ③関心・意欲・探究心	テーマのたて方(研究目的、調査項目の設定)	<input type="checkbox"/> 独創的で、明確なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	<input type="checkbox"/> 明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	<input type="checkbox"/> 実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	<input type="checkbox"/> テーマが設定され、研究目的が示されている。
②思考・判断・表現・情報活用能力 ⑤異文化・未来志向力	先行研究・先行事例等の資料の活用	<input type="checkbox"/> 信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付け効果的に活用している。	<input type="checkbox"/> 信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	<input type="checkbox"/> 複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	<input type="checkbox"/> これまでの先行研究・先行事例について示されている。
	研究方法(調査方法)と分析の視点	<input type="checkbox"/> 複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしいいくつかの研究方法(調査方法)を用い、明確な分析の視点を示している。	<input type="checkbox"/> 複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしい研究方法(調査方法)を用い、分析の視点を示している。	<input type="checkbox"/> テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用い、分析の視点を示している。	<input type="checkbox"/> 研究方法と分析の視点が示されている。
⑤異文化・未来志向力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案	結論(提案・改善案)今後の展望	<input type="checkbox"/> 他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を効果的に用いて、より具体的な提案ができている。	<input type="checkbox"/> 他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を用いて論理的に説明できている。	<input type="checkbox"/> 調査から明らかになったことについて記述(発表)し、得た情報がある程度用いて説明できている。	<input type="checkbox"/> 調査から得られた情報の記述(発表)しようとしている。
①日本の歴史・伝統・文化	日本の歴史伝統文化の理解の深化	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、論理的に説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、テーマと関連付けてより具体的に説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え、説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れている。
⑧英語力 ④コミュニケーション能力	課題研究発表とレポート	<input type="checkbox"/> 英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論(提案・改善案)を説明できる。質問に英語で答えることができる。	<input type="checkbox"/> 英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論(提案・改善案)を説明できる。	<input type="checkbox"/> 英語で研究テーマ、要旨を説明できる。	<input type="checkbox"/> 英語で研究テーマ、要旨を説明しようとしている。
<b>項目に基づく全体評価</b> (自分を前向きに評価してください) 合計が20以上かつCが0＝S(4)、16以上＝A(3)、12以上＝B(2)、12未満＝C(1) 先生のコメント					
全体評価 右のいずれかに○をつけてください。				S、A、B、C	

## 第1 学年生徒自己評価

	評価項目	S	A	B	C
1	テーマの立て方 研究目的・調査項目の設定	4.6%	37.1%	47.9%	10.4%
2	先行研究・先行事例等の資料の活用	7.1%	44.3%	43.6%	5.0%
3	研究方法（調査方法）と分析の視点	4.3%	32.5%	55.0%	8.2%
4	日本の歴史・伝統・文化の理解	5.0%	21.5%	45.9%	27.6%
5	役割分担と協力	17.6%	41.9%	34.4%	6.1%
6	課題研究発表とレポート	3.9%	37.3%	44.4%	14.3%

## ② 第2・3 学年生徒対象ルーブリック評価表

課題研究プロセス2・3年 自己評価 研究テーマ(タイトル)		年 組 氏 名			
身につけさせたい資質・能力等 ①日本の歴史・伝統・文化に対する理解の深化 ②思考力・判断力・表現力・情報活用能力 ③グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探求心 ④コミュニケーション能力 ⑤日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しよりよき未来を志向する力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案を的確に発信する力 ⑧英語力					
資質・能力	項目	S(4) 新しい発想ができるレベル以上である	A(3) 他の視点や発想を取り入れることができるレベルである	B(2) 求めているレベルに概ね達している	C(1) 求めているレベルにもう少しで達する
②思考・判断・表現・情報活用能力 ③関心・意欲・探求心	テーマのたて方 (研究目的、調査項目の設定)	□明確で実現可能な独自のテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	□明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	□実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	□テーマが設定され、研究目的が示されている。
②思考・判断・表現・情報 ⑤異文化理解・未来志向力	先行研究・先行事例等の資料の活用	□信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付け効果的に活用している。	□信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	□複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	□これまでの先行研究・先行事例について示されている。
	研究方法(調査方法)	□テーマ・研究目的にふさわしい独自の研究方法(調査方法)を用いている。	□テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を複数用いている。	□テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用いている。	□テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用いようとしている。
②思考・判断・表現・情報 ④コミュニケーション能力	分析	□調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などと比較し、他者にわかりやすいように分析した結果をグラフなどで示している。	□調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などとの類似点・相違点など分析している。	□調査した内容をグループでまとめている。	□調査した内容をグループでまとめようとしている。
⑤異文化・未来志向力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案	結論(提案・改善案) 今後の展望	□他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を効果的に用いて、より具体的な提案ができて	□他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を用いて論理的に説明できている。	□調査から明らかになったことについて記述(発表)し、得た情報ある程度用いて説明できている。	□調査から得られた情報の記述(発表)しようとしている。
①日本の歴史・伝統・文化	日本の歴史伝統文化の理解の深化	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、論理的に説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、テーマと関連付けてより具体的に説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え、説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れている。
④コミュニケーション能力 * 今回は班全体の状況を見てチェックを付けてみてください。	役割分担と協力	□自分の役割を積極的に果たしながら、他のメンバーの手助けを行い、グループ研究で行う優れた研究をリードしている。	□自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	□自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの寄与はさほど大きくない。	□自分の役割は自覚し、それを十分果たそうとしている。
*中央教育審議会 高等学校部中央教育審議会『ルーブリックを活用したアセスメント』2012.11.19、愛媛大学課題研究ルーブリック、千葉工業高校ルーブリックを参考に作成					
項目に基づく全体評価 合計が25以上かつCが0=S(4)、20以上=A(3)、15以上=B(2)、14以下=C(1)					
先生のコメント		全体評価 右のいずれかに○をつけてください。S、A、B、C			

## 第2 学年生徒自己評価

	評価項目	S	A	B	C
1	テーマの立て方 研究目的・調査項目の設定	7.6%	50.5%	34.2%	7.6%
2	先行研究・先行事例等の資料の活用	9.5%	44.5%	37.2%	8.8%
3	研究方法（調査方法）と分析の視点	12.4%	45.5%	33.8%	8.4%
4	分析	9.5%	40.7%	41.1%	8.7%
5	結論（提案・改善案）今後の展望	6.9%	37.8%	46.5%	8.7%
6	日本の歴史・伝統・文化の理解	5.1%	36.4%	44.4%	14.2%
7	役割分担と協力	8.0%	48.5%	35.0%	8.4%
8	課題研究発表とレポート	6.9%	37.8%	45.1%	10.2%

### 第3学年生徒自己評価

	評価項目	S	A	B	C
1	テーマの立て方 研究目的・調査項目の設定	12.8%	48.0%	32.6%	6.6%
2	先行研究・先行事例等の資料の活用	16.1%	42.1%	36.6%	5.1%
3	研究方法（調査方法）と分析の視点	12.8%	50.5%	31.9%	4.8%
4	分析	14.7%	47.3%	33.7%	4.4%
5	結論（提案・改善案）今後の展望	8.4%	49.8%	38.1%	3.7%
6	日本の歴史・伝統・文化の理解	14.3%	40.3%	37.0%	8.4%
7	役割分担と協力	24.5%	43.2%	27.1%	5.1%
8	課題研究発表とレポート	13.9%	49.5%	31.1%	5.5%

「GL」探究は概ね予定どおり進めることができた。

主な改善点は、第1学年については、課題研究におけるテーマ決めをはじめ、研究を円滑に進めることができるよう、ガイダンスの時間（5の（1）～（8））を増やすとともに、2年生の活動を参観する機会（5の（22））を設けた。さらに、1分間スピーチだけでなく、課題研究進捗状況報告会（5の（20））を実施し、自己の研究の進み具合を確認するとともに、研究を整理する機会を設けた。その結果、どのグループも研究の方向性を明確にすることができた。また、発表に向けた準備が円滑に進められるよう、英語のポスター作成時に、日本語版ポスターを作成したあとで、英語版ポスターを作成する過程を設けた。「互いのプランを深め合うクラス発表会」（5の（26））では、全グループが英語で発表した。メロス言語学院の学生（海外からの留学生）は、「研究目的」「先行研究の調査方法」について、全グループの88%に対して「優れている」「良い」と評価している。生徒の自己評価についても「テーマの立て方 研究目的・調査項目の設定」「先行研究・先行事例等の資料の活用」「研究方法（調査方法）と分析の視点」について、89%以上の生徒が「求めているレベル」以上の評価をしている。

第2学年については、昨年度まで毎時間、旧1学年のクラスごとに活動を進めていたが、今年度からは、研究に係る情報を共有し研究を深めることをねらい、研究グループを分野ごとに集めて活動を進めた。また、第1学年同様、課題研究進捗状況報告会（6の（11））を実施した。「互いのプランを深め合うクラス発表会」（6の（14））では、メロス言語学院の学生は、「質疑応答」を除いた評価項目について90%以上のグループに対し「優れている」「良い」と評価している。

また、「調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え説明できる」に到達していない生徒は第1・2学年生徒に多い。しかし、第3学年生徒は概ね到達しており、研究が進まないに到達できない評価規準となっているので、第1・2学年生徒については、今後の理解の深まりが期待できる。

生徒の自己評価から、全学年において身に付けさせたい8つの資質・能力（Iの3）は、各学年の目標において概ね身に付けることができたことと捉えている。このことから、「GL探究」は、改善を進めたことで8つの資質・能力を身に付けさせる上で有効であると言える。

課題については、「互いのプランを深め合うクラス発表会」において、メロス言語学院の学生は、第1学年全グループの33.4%について「もう少し頑張る」「努力が必要」と評価している。研究について、原稿にないことについて英語でやりとりする力は、まだ十分とは言えない。第2学年についてもその傾向がある。第1・2学年生徒の自己評価についても「課題研究の発表とレポート」について、到達していないと評価している生徒が10%を超えている。現在「GLコミュニケーション英語」で指導を進めており、今後も継続して英語力の向上を目指したい。